

# 施設・設備のバリアフリー

## 九州大学らくちんラボ

九州大学は2018年度にキャンパスバリアフリー検討研究会を設置し、2022年度からは「らくちんラボ」を発足して学内のバリアフリーを推進しています。らくちんラボは、医学、心理学、発達障害学、色彩、視覚、音響、情報科学、建築、都市、交通等の多様な分野を専門とする教員、および、大学の学生支援、環境安全管理、施設計画を担う各部署の職員で構成しています。キャンパスライフ・健康支援センターのシンクタンクとしての機能を持ち、当事者の要望を受けた各部署等の個別対応に際し、最新の技術を含めた学内外の知見を学際的に利活用し、最適解を見出す支援を行います。また、オーダーメイドの個別対応を蓄積して経験値を高め、大学全体の対応力強化につなげるとともに、学際研究と新技術実装の推進によりイノベーションを起こし、インクルーシブキャンパスの実現につなげることを目指しています。

## 主な実装事例

1

### 色覚の多様性に配慮したカラーユニバーサルデザイン

日本人の男性20人に1人（5%）、女性500人に1人（0.2%）が色覚異常であるといわれています。色の識別が困難な色覚異常の方々にとって、混同色が多用された見分けにくい視覚表示物は、優しくありません。本学では、色覚異常の大半を占める2色覚の方々の識別色をとりまとめた配色セットを開発し、キャンパス案内図を対象にカラーユニバーサルデザインを実践しました。配色検討に2色覚当事者とアクセシビリティ・ピアサポーター学生が参加する当事者共創のプロセスを通して、より分かりやすい配色を実現しています。

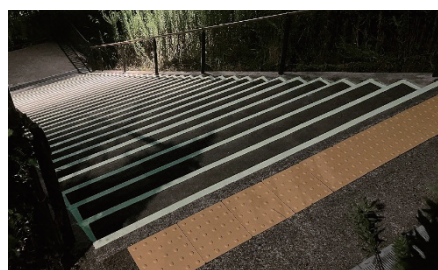


色覚の多様性に配慮した新しいキャンパス案内図（椎木講堂前交差点）

2

### 夜盲症の人に配慮した識別しやすい蓄光階段

夜盲症の方にとって、夜間の屋外環境は通常の照明だけでは見えにくい場合がありますが、照明の増設による見えにくさの改善は整備コストが大きくなります。本学では、蓄光ラインの敷設により段差境界線の識別性を向上する方法を案出しました。塗布色、塗布形状を当事者との共創で検討し、夜間の視認性を向上しました。夜盲症の方のニーズを基点に、多くの人の歩行安全性を向上しています。



夜盲症の人に配慮した蓄光階段（協奏館前階段）

3

### 発達障害者が落ち着くひとり空間

過敏性のある発達障害者は、ひとりになって落ち着く空間が必要です。本学では、建築、音響、発達障害、公共空間の専門家が分野を横断してひとり空間のアイデアを案出し、パーティションタイプのカームダウンルームを開発しました。各部材は吸音性の高い構造を有し、全体形状は天端の庇と側面の袖壁で音や視線を遮り、利用者を包み込むことで「囲われ感」を創出しています。



過敏性のある人に配慮したひとり空間（喫鳴天空広場）